

Web 上の BADUI をユーザの手で改善可能とするシステムの提案

田島 一樹* 中村 聡史*

概要. Web 上にはユーザの戸惑いや誤操作を誘発するような、使いづらい・わかりにくい UI (ユーザインタフェース) が多数存在している. こうした Web 上の UI には, そもそも情報が不足している, 入力し間違いやすいなどの問題がある. そこで本研究では, こうしたユーザにとって使いづらく, またはわかりにくい Web 上の UI を, 使いやすく, そしてわかりやすくなるよう支援する手法とシステムの提案をした. ここでは特に, 注意事項添付・誤字脱字訂正・難解語に対する解説付与・入力フォームでの自動変換・入力フォームへの例付与をユーザに設定可能とする機能を実装した.

1 はじめに

インターネットの普及とともに急速に増加した Web サイトは現在 10 億件[1]を超えており, 多くのユーザにとって情報収集やオンラインショッピングなどのサービスを受けるために欠かせないものである. しかし, それにも関わらず Web サイトの中にはユーザにとって使いづらいものが珍しくない. 中村[2]は, こうした身の回りの使いづらい UI (ユーザインタフェース) を BADUI と名付けている. こういった問題に対し, これまでに Web サイトのユーザビリティの評価, 改善を目的とした研究[3][4]は多くなされてきている. しかし, 使いにくい Web サイトは開発コスト等の事情によって改善されていないことも多く, 使いづらいまま放置されているものが珍しくない.

そこで本研究では, 一般ユーザが Web サイトの問題点を改善可能とし, その改善結果を他者と共有することで, BADUI でのユーザの操作容易性を向上させる手法とシステムを提案する. また, この手法のメリットの考察と今後の課題を検討する.

2 BADUI

BADUI とは使いづらいユーザインタフェースのことを指す. Web 上の BADUI の例を挙げると, 半角と全角の区別など入力形式に注意しなければならない入力フォームや, エラーが起きた場合に表示される「受付できない文字が入力されました」のような何が問題なのかという手掛かりが少なく, 解決が困難なメッセージなどがある. こうした, Web 上の BADUI は下記のように整理される.

Copyright is held by the author(s).

* 明治大学

- **手がかりの欠落:** 何を入力すべきか, どのように入力すべきかなどの情報がない
- **フィードバックの問題:** 入力に間違いがあるときにどういった間違いなのかといったフィードバックが不足していたり, 操作後の反応が遅かったりなど
- **一貫性の欠如:** 入力における半角と全角の混在やボタンの配置が左右入れ替わるなど
- **慣習からの乖離:** 色やアイコンの形によって連想できる機能と, 実際の動作が異なる
- **メンテナンス不足:** 情報が古いまま残されており, ユーザを無駄に混乱させてしまう
- **引っ掛け:** ユーザからは認知されにくい位置でサービスの提供の否応を問う

3 提案手法

我々は Web ページ内の BADUI をユーザの手によって少しでも使いやすいものとするため, ユーザ自身が BADUI を含んだページに対してアノテーションや変換フィルタ等の機能付与を行い, それらを他のユーザと共有する手法を提案する. 本稿では提案手法を実現するためのシステムを実装した. 他のユーザは, 本システムを利用して Web ページにアクセスすると, 他者により問題が修正された必要な情報が提示されたり, 誤った入力を自動修正してくれたりするため, 混乱することなく利用することができる. 機能については下記に示す. また, 実際に Web サイトを改善している様子を図 1~5 に示す.

- **ウェブラ:** ラベルシールのようなものを貼り付けることで手掛かり情報を提示する
- **吹き出し解説:** 専門用語などわかりにくい語に対して吹き出しによる説明を付与する
- **うっかり誤字訂正:** Web ページ上の情報に誤りがある場合に修正を行う

